

「令和2年度地域活動指導員等研修会（兼）体験活動プログラム研修会」事業報告

1 事業名 令和2年度地域活動指導員等研修会(兼)体験活動プログラム研修会

2 期 日 令和2年9月17日(木)

3 参加者 29名

4 日 程

時 程	内 容
12:40	
13:00	受 付
	開 会 行 事
13:10	ガイダンス
	研修1〈講義〉 「どの子ども楽しく参加できる体験活動を行うために」 ～人権を大切にしたい指導の在り方～ 筑豊教育事務所 人権・同和教育室 社会教育主事 野田 大樹
13:30	研修2〈講話・演習〉 「やってみよう！どの子ども参加できるレクリエーション」 九州共立大学 スポーツ学部 助 教 花田 道子 氏
15:00	
15:10	閉 会 行 事

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、「どの子ども楽しく参加できる体験活動を行うために」と題して、当事務所人権・同和教育室の野田社会教育主事が講話を行いました。まず、導入として、具体的な事例をもとに、何気ない言葉からその子の心を傷つけてしまったことはないか、参加者自身に振り返っていただきました。また、この何気ない言葉から相手を無意識に傷つけることを、「マイクロアグレッション（悪意がない無意識の攻撃）」といい、相手に対する無理解や偏見が、「マイクロアグレッション」につながるということを理解していただきました。そして、子どもの心を傷つけずに、どの子ども楽しく参加できる活動にするために、「内容づくり」「環境づくり」「人間関係づくり」の3つが大切であることを理解していただきました。

参加者は、子どもの人権を守るために、人権への知的理解と豊かな人権感覚を身に付け、「指導者自身が変わること」が大切であると認識していました。そのために、子どもの体験活動の指導に関わる者として、「子どもと適切な言葉遣いで話す。」「子どもの話を最後まで聞く。」「活動意欲が高まるほめ方や注意の仕方を考える。」等、子どもの立場に立った接し方の大切さを学ぶことができました。

(2) 活動写真



マイクロアグレッションについての説明をする野田社会教育主事



事例をもとに自己の振り返りを行う参加者

(3) 参加者の声

- 子どもに対して（背景や人のうわさなど）先入観を持たずに、接することが大切だとわかりました。
- どの子どもも楽しく参加できるようにと理解しているつもりでしたが、改めて再認識できました。
- 何気ない一言で子どもたちを傷つけてしまう可能性があるため、これからはより一層、自分の言動に気を付けなければと感じました。

研修2

(1) 内容

研修2では、「やってみよう！どの子どもも参加できるレクリエーション」と題して、九州共立大学スポーツ学部の花田道子助教を講師に迎え、講話と演習を行いました。

まず、どの子どもも参加し楽しむためには、①子どもたち自身が「わかる」工夫、②視覚的に理解できる工夫、③用具やルールなどの工夫の3つの支援が大切であることをわかりやすくご教授いただきました。また、そのための活動プログラムの構成例や、新型コロナウイルス感染予防の観点から、いわゆる「3密」（密閉、密集、密接）を避けながら、花田助教と参加者が、椅子は動かさずその場でできるアイスブレイクや、レクリエーションの演習を行いました。参加者は、既存のレクリエーションやゲームをアレンジすることで、「3密」を回避する活動を自分で作り出すことができるということを学ぶことができました。

(2) 活動写真



どの子どもも参加できて楽しめるための工夫について話す花田助教

花田助教と一緒にレクリエーションを行う参加者

(3) 参加者の声

- どの子どもも、話し方、接し方、「わかる」工夫をする大切さを認識できました。
- どの子どもも参加できるように工夫するというのを、そこまで考えてなかった気がします。レクリエーションのアイデアをもらい、とても参考になりました。
- 「3密」を回避してできる遊び、フラフープを使って遊んでみようと思いました。また、アイスブレイキングをとおして、周囲の人と人との壁を取り除き、協力して物事に取り組むことができると学びました。

6 全体をとおして

今回の研修会は、どの子どもも楽しく参加できる体験活動、レクリエーションの指導方法を学ぶことをとおして、充実したプログラムをどう作っていけばよいのかを考えるものでした。本研修会には、地域活動指導員の他、小中学校教職員や教育委員会関係者、アンビシャス広場関係者等の参加がありました。講師の花田助教から、新型コロナウイルス感染予防の観点から、「3密」を避けたいうで、どの子どもも楽しめるレクリエーションの工夫について詳しく説明していただきました。参加者からは、「子ども会等で活用します。」「花田先生から具体的なレクリエーションを提示していただいたので、ぜひ使ってみたいです。」等の感想があり、子どもの体験活動において活用できる内容を学ぶことができた有意義な研修会になりました。今後も、現在の社会の状況に対応しながら、参加者が体験活動などの指導を充実させて、どの子どもも楽しく活動を行うことができるようなプログラムを学ぶことができるような研修会を実施していきたいと考えます。